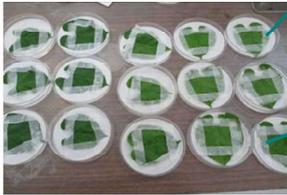


(別紙2) イチゴ害虫の「ハダニ類」に対する簡便・迅速な薬剤感受性検定法

●「粘着テープ」を用いた簡易型微小害虫薬剤感受性把握法（テープ法）の確立

従来法（食餌・虫体薬剤散布法；浜村1997）



雌成虫の場合、1シャーレに約20頭を接種。1濃度（薬剤）に3シャーレ必要なので、計60頭が必要

準備だけで20分/24シャーレ程度必要

結果判定までに要するおおよその時間（延べ）
24日

テープ法



- ・現場で直接処理区準備可能
- ・栽培植物を損なわない
- ・短期間で判定可能
- ・サンプルの飼育不要
- ・特殊な機器不要
- ・餌となる植物の養生不要

結果判定までに要するおおよその時間（延べ）
3日

○セロハンテープによるスライドディップ法

- ①直径9cmのプラスチックシャーレの底に、長さ7cm程度に切り取った両面テープを貼り剥離紙を剥がし、検定容器とする。
- ②セロハンテープを4cm程度に切り取り、一端の粘着面同士を合わせ持ち手にし、寄生しているナミハダニ雌成虫の背中側から、セロハンテープを押しつける。
- ③1テープあたり約10頭捕獲。
- ④捕獲したセロハンテープの捕獲された部分を上に向け、検定容器の両面テープの粘着部に貼り付ける。
- ⑤セロハンテープ上の生存頭数をカウント後、検定容器内の虫体に十分薬液がかかるよう処理し、10秒後、薬液を捨て風乾する。
- ⑥検体を20℃の室内で静置。
- ⑦薬剤処理から3、6、24、48時間後の生存中数及び死亡虫数を計数（苦悶虫も死亡虫とする）。

●従来の検定方法

- ①直径9cmのプラスチックシャーレに十分湿らせたろ紙を置き、ろ紙上に直径2cmのインゲンマメリーフディスク（インゲンマメの葉）を裏面が上になるように設置する。
- ②ナミハダニ雌成虫を小筆で約10頭捕獲し、リーフディスク上に置き、ハンドスプレーで薬剤が約5mg/cm²となるように散布し風乾する。
- ③検体を20℃の室内で静置。
- ④薬剤処理から3、6、24、48時間後の生存中数及び死亡虫数を計数。